

事業報告書

事業名	紛争時の難民支援とソーシャルワーク
事業の実施状況	<p>1:事業目的</p> <p>周知のとおり、世界の情勢もこの1年で一変した。ロシアによるウクライナ侵攻により始まった戦争での死者数、国内外への避難者数は増え続けている。ウクライナでは、今なお多くの人々が住まいを奪われ、避難を余儀なくされている現状であり、教育の機会や就労の機会を奪われている。現在ウクライナから国外への避難民は800万人と言われているが、日本には、2,000人以上の人々が避難している。日本財団の調査によると、約4分の1の人が「できるだけ長く日本に滞在したい」と考えており、「ウクライナの状況が落ち着くまでしばらく滞在したい」と考える人を合わせると、65%を超える方が長期滞在を希望している現状である。まさに、避難民・難民に対するソーシャルワーク支援をミクロからマクロまでどのように展開していくのかを考える機会が必要となる。</p> <p>今年度は2つの企画を立てた。1つ目は難民、避難民に関する制度、支援の現状、当事者の生活を理解するためのオンデマンド学習ビデオの作成、2つ目はシンポジウムの開催である。「ウクライナ避難民・難民に対するソーシャルワーク」のテーマとして目的を</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ウクライナ避難民・難民に対するミクロ・メゾ・マクロのソーシャルワークの実際を知る 2)紛争時のソーシャルワークを理解する 3)世界のソーシャルワーカーが協働できることを考える <p>とした。</p> <p>2:事業スケジュール</p> <p><u>2022年</u></p> <p>9月～ 隔月、日本ソーシャルワーカー連盟内の国際委員会を開催。 シンポジウム骨子やシンポジストを検討。</p> <p>10月～事前オンデマンド動画作成を決定。内容・スピーカーを検討。 シンポジウム内容の詳細検討、シンポジスト決定、順次交渉開始。</p> <p>12月～ シンポジウム当日の配信業者を選定。配信会場決定。 オンデマンド動画スピーカーを決定、順次交渉開始。</p> <p><u>2023年</u></p> <p>1月～ オンデマンド動画撮影・編集開始。シンポジウム広報開始。</p>

シンポジストとの詳細打合せ、プレゼンテーションスライド等資料作成依頼
2月～ オンデマンド動画配信開始。シンポジウム申込受付開始。
配信業者・通訳派遣会社との打合せ、資料の受け渡し・翻訳。
3月 シンポジウム開催、完了報告書類作成・提出、報告冊子作成。

3:事業実施体制

運営の実施は、当連盟の今年度・次年度幹事団体である日本医療ソーシャルワーカー協会の国際委員 3 名および事務局職員 2 名を中心に行った。また、日本医療ソーシャルワーカー協会内に、国際プロジェクトチームを発足し、チームメンバーを協会内で募集した結果、会員の中から 5 名を選出した。このチームメンバーとともに、上記の国際委員や事務局職員で細かい内容を検討した。

4:事業実施状況

(1)難民・避難民に関する事前学習オンデマンド作成

シンポジウム参加前に視聴することのできるオンデマンド事前学習動画を作成することとした。動画の話者は、アカデミックな立場のもの、現場での実践者、難民当事者とし、様々な角度から日本の難民制度・現状を伝えるものとなった。内容・話者は下記の通りとなる。

■ 難民・避難民の概要、日本の難民受け入れと制度

森恭子氏(日本女子大学教授・日本ソーシャルワーカー連盟(JFSW)国際委員)

■ 世界の難民情勢と国際的な関連動向

ヴィクター・ヴィラーク氏(社会事業大学准教授、JFSW 国際委員)

■ 難民・避難民支援とソーシャルワーク

石川美絵子氏(社会福祉法人国際社会福祉事業団 常務理事)

■ 難民申請から認定までの過程、生活の課題と支援など

アフガニスタンからの難民当事者の方

(インタビュアー:認定 NPO 法人難民支援協会(JAR)職員 新島彩子氏)

■ 第三国定住の受け入れ、地域支援の概要ほか

ミャンマーからの難民当事者の方、仙部孝一氏(武里日本語教室スタッフ)

(インタビュアー:一般社団法人ミナー代表 櫻井美香氏)

(2)ウクライナ難民・避難民に対するソーシャルワーク シンポジウム

本シンポジウムは 3 月 12 日(日)に東京都内の会場より世界各国へオンライン配信された。企画当初はオンラインと対面のハイブリッド開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンラインのみの開催とした。世界 46 か国から

433名の申し込みがあり、当日は288名の参加となった。参加者・申込者の約6割が日本在住の方、約4割が海外の方であった。講演内容・話者は下記の通りである。

シンポジウムタイトル:

世界ソーシャルワークデー記念シンポジウム
「ウクライナ避難民・難民に対するソーシャルワーク」

講演内容／話者:

- 紛争による避難民・難民支援におけるメゾ実践、多機関連携と官民連携
ローリー・トゥルーエル氏(国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)事務局長)
- 紛争による避難民・難民支援におけるマクロ・ミクロ実践、国際協力の促進と救援物資のコーディネート、心理的支援とトラウマ対応
ヘルベルト・パウリシン氏(IFSWヨーロッパ国連委員長)
ヤナ・メルニチュク氏(ウクライナソーシャルワーカー協会 会長)
- 紛争による避難民・難民支援におけるメゾ実践、多機関連携と官民連携
アナ・ラドゥレスク氏(IFSWヨーロッパ 会長、IFSW 副会長)
- 横浜市国際交流協会のウクライナ避難民支援について－暮らしを支える様々な取り組みと課題－
門美由紀氏(横浜市国際交流協会 多文化共生推進課 担当課長)
- モデレータ:
小原真知子氏 (IFSW アジア・パシフィック会長、日本ソーシャルワーカー連盟 国際委員会 委員長、日本医療ソーシャルワーカー協会 副会長)

(3)成果物の公表

事前オンデマンド動画は、日本ソーシャルワーカー連盟ホームページ(<https://jfsw.org/>)にて配信している。シンポジウムの動画は、編集後に配信予定である。

(4)アジア太平洋地域のネットワーク強化・プラットフォーム構築

アジア太平洋地域のネットワーク強化・プラットフォーム構築に関しては、その目的のために参加を予定していたフィリピンでの国際ソーシャルワーク大会が令和5年度の開催となったため、来年度に持ち越しとした。